

---

---

## 書評

---

生物と気象 (*Clim. Bios.*) 7:C-1, 2007

~~<http://www.soc.nii.ac.jp/agrmet/sk/2007/C-1.pdf>~~

2007年9月5日掲載

<http://www.agrmet.jp/sk/2007/C-1.pdf>

### 地球の悲鳴 - 環境問題の本 100 選

陽 捷行 著, アサヒビール株式会社発行, 清水弘文堂書房編集発売,  
2007年3月, 282pp. 定価¥1,980円

21世紀は環境の時代といわれ、いわゆる環境に関する書物が巷にあふれかえっている。どれを手取るべきか、なかなか決断できないことが多い。そうしたときのバイブルになる書物が刊行された。その名は「地球の悲鳴 - 環境問題の本 100 選」である。

著者は、前職の独立行政法人農業環境技術研究所理事長時代の「情報：農業と環境」と、現職の北里大学副学長として北里大学学長室通信「情報：農と環境と医療」に、環境にかかわる「本の紹介」を数多く書いてきている。本書は、それらをまとめて「地球の悲鳴 - 環境問題の本 100 選」とし、アサヒビール株式会社が刊行する「ASAHI ECO BOOKS」シリーズのひとつとしたものである。

本書に登場する本は、ノカナダの元祖・森人たちノ生態系を破壊する小さなインベーダーノ失われた森ノ生命と地球の共進化ノ水不足が世界を脅かすノ地球を守る環境技術 100 選ノ農山漁村と生物多様性ノ鎮守の森ノ大気環境学ノ化学物質は警告するノマングースとハルジオンノTrace Gas Emissions and Plantsノアジア環境白書ノ環境の哲学ノ1万年目の「人間圏」ノ宇宙は自ら進化したノ縄文農耕の世界ノ農的循環社会への道ノ水と生命の生態学ノリスク学事典ノ環境土壌物理学ノエコ・エコノミーノ地球白書ノレスター・ブラウンの環境革命ノガイアの時代ノ環境考古学のすすめノ、ほか全部で 100 点の環境関連本の紹介である。

それぞれの紹介文は、15 ページに及ぶ詳細なものから、1 ページの短いものまでが混在している。しかし、ページ数でそれぞれの本の重みを分けているのではない。それぞれの本を紹介する状況が異なったためであろう。

21 世紀のわれわれに必要なとされる新たな「知」とは何か。環境問題と向き合う人達のための、また忙しいが短時間で知識を得たいと思っている人達のためには、絶好の必読書である。

(生物系特定産業技術研究支援センター 清野 裕)